

乳がんの発癌および腫瘍進展に関わる分子機構の解明

研究対象:

2002年から2014年の間に、防衛医科大学校病院において乳腺の針生検ないし手術を受けられた患者さんのうち、防衛医科大学校病院検査部に手術時切除組織のホルマリン固定パラフィン包埋標本が保存されている方を対象とします。

研究の概要:

現在、乳がんに対する治療方法は、がんの外科的治療と抗がん剤による化学療法、ホルモン療法、分子標的療法が一般的となっており、乳がん手術標本や針生検標本による乳がんの病理検査は、患者さんの治療法を決定するうえで、重要な位置を占めています。私たちは、乳腺腫瘍に対する手術や針生検を受けられた患者さんの病理検査標本を用いて、乳がん細胞が発現している異常なタンパク質や染色体の変化を調べることで、乳がんの発生や乳がんが進行するのに重要な仕組みを推定する研究を進めています。

研究の意義:

乳がんの発生や進行に関連する因子の研究は、乳がんの診断精度の向上や、乳癌に対する外科的治療や化学療法をより有効なものとし、予め治療の効果を予測したり、いままでに知られていなかった治療の標的の分子を見つけたりできるようになる可能性があります。患者さん個人に適した治療(テーラーメイド治療)を確立していく上において大きな意義があるものと考えられます。

目的:

乳がんの腫瘍細胞に発現している異常なたんぱく質などの物質や、腫瘍細胞から抽出した DNA という物質から、腫瘍に特異的に発現する因子や染色体の異常を解析し、乳がんの診断精度の向上やそれぞれの患者さんに最適な乳がん治療法の選択を可能にすることを目的とします。また、抗がん剤治療の効果に関連する新規標的分子の検討や、その分子の情報と化学療法による腫瘍縮小効果などの臨床情報を比較することで、抗がん剤治療を行った患者さんの治療後の経過を予測し、さらには新規薬剤の創薬に代表される、より安全で効果的な治療の開発に役立てる事を目的とします。

方法:

2002年から2014年の間に、防衛医科大学校病院において乳腺の針生検ないし手術を受けられた患者さんの病理標本を用いて、病変内における異常な分子の発現や染色体の異常がないか調べます。

今回、患者さんに新たな追加検査を行うことはありません。既に保存されている病理検査標本の一部をこの研究のために、使用させていただきます。

個人情報保護に関する配慮:

本研究では標本等の個人情報は匿名化され、個人が特定されることはありません。また、個人が特定されるような情報は一切公表しません。

過去に当院で乳腺の手術、針生検を受けられた方で、ご自身の病理検査標本や情報を本研究に使わないで欲しい、というご希望があれば、担当医師あるいは以下の連絡先までご相談下さい。

研究代表者(本研究全体の責任者):

防衛医科大学校病態病理学講座 桂田 由佳

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校 病態病理学講座 桂田 由佳

TEL:042-995-1211(内線)2278